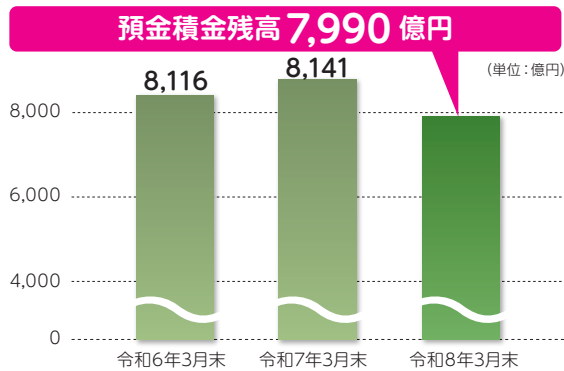
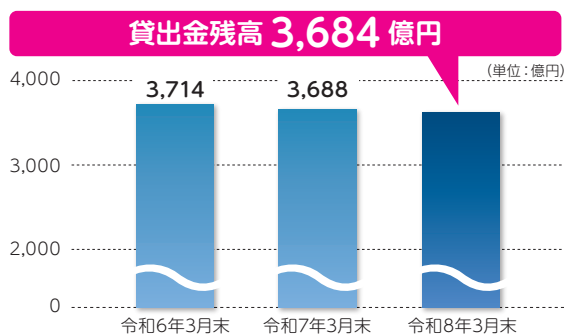




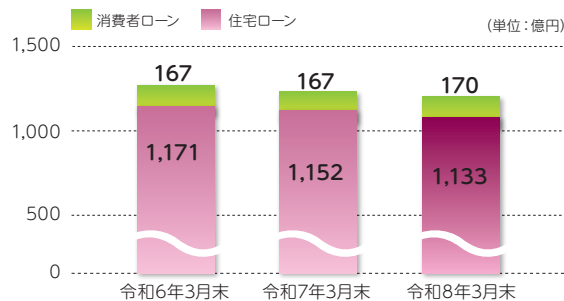
【預金積金残高の推移】



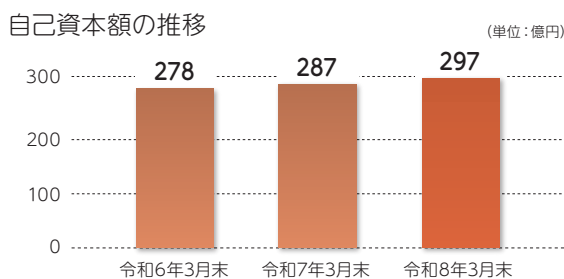
【貸出金残高の推移】



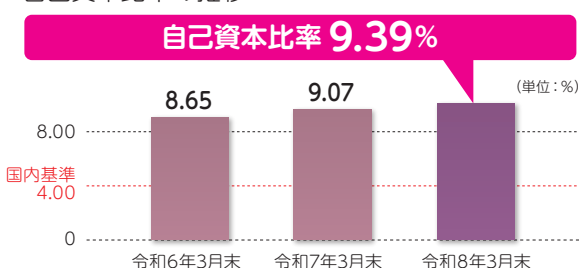
【個人ローン残高の推移】



【自己資本の推移】



自己資本比率の推移



◆業績ハイライト(事業成績の推移)

預金積金の推移

定期預金のキャンペーンを年4回実施し、個人・法人向けの預金増強をメインとした活動を展開しましたが、資産運用商品へのシフトや相続による流出などの要因もあり、預金積金の残高は、前期比150億88百万円減少の7,990億66百万円となりました。

また、預かり資産については、ライフプラン支援活動を通じ、お客さまの様々なニーズに合わせ、一時払型・月払型・第3分野商品などの提案型セールスを展開したほか、マネーアドバイザーを中心としたコンサルティング営業に取り組み、期末残高は前期比63億10百万円増加の642億84百万円となりました。

貸出金の推移

貸出金の期末残高は、前期比4億25百万円減少の3,684億45百万円となりました。

事業者向け融資では、経営支援を中心に課題解決に向けた提案活動を展開しましたが、経済の先行き不透明感に加え、政策金利引き上げによる金利上昇への警戒感が強まり、前期比24億14百万円の減少となりました。

個人向け融資では、お客さまのライフサイクルやニーズに合わせたキャンペーンの実施やWEB申込みの取組みを強化したことにより、消費資金が前期比2億93百万円増加したものの、住宅着工件数の減少により、住宅資金が前期比19億6百万円減少し、その結果、前期比16億14百万円の減少となりました。

損益の状況

損益面については、預金金利の引上げにより預金利息が増加したものの市場金利上昇に伴う余裕資金利益の増加等から、主な業務活動の利益を示す業務純益は、前期比1億37百万円増加の18億83百万円となりました。

自己資本比率の状況

自己資本比率は金融機関の健全性、安全性をはかる重要な指標のひとつです。信用金庫では経営の健全性と安全性を確保するため、リスク資産に対して4%以上の自己資本を保有することが義務づけられています。

令和8年3月末における自己資本比率は前期比0.32ポイント上昇の9.39%となり、上記基準の4%を大幅に上回っており健全性を確保しております。今後とも経営の健全性を維持していくために収益力の強化に努め、自己資本の充実を図ってまいります。